小平西のきずな

「小平西地区地域ネットワーク」ニュース No. 37

2021 年 3 月 6 日（火）発行

発行責任者：草野篤子（白梅学園大学）

TEL: 042－346－5639

住所：〒187-8570

東京都小平市小川町1－830

保育・子育てと地域性ということ

白梅学園大学・短期大学学長

近藤幹生

小平西地区の地域性とは、どのような特色があるのでしょうか。自然、文化、生活環境など、地域をみつめる視点は、豊かな内容があるでしょう。では、保育・子育てということではどうでしょうか。

―保育は、託児、あるいは家庭の救済として開始されてきた―こうしたとらえ方が主流かもしれません。でも、1947（昭和 22）年の児童福祉法制定時、幼児の保育内容が示された保育要領（1948 年）でも、保育と教育を一体にとらえる視点がありました。さらに、児童憲章（1951 年）では、「児童は人として尊ばれる。児童は社会の一員として重んぜられる。児童は良い環境の中で育てられる。」とあります。これは、どの子にとっても、あたりまえの内容です。今年は、児童憲章の制定 70 周年で、より意識的に考え合いたいと思います（『子どものしあわせ』1 月号で増山均早稲田大学名誉教授と対談）。子ども一人ひとりを、尊厳としてとらえて、最善の利益保障をめざし、力を尽くしたいものです。

2020 年からのこの1年間、新型コロナウイルスの感染が広がるなかで、保育・子育てという面から見ても、社会の日常が、誰により支えられているのか、目の当たりにしました。人間同士が、つながりあいながら、動いている地域社会であることを痛感してきたわけです。保育・子育てに限らず、食料の調達や、運送業、ごみ収集など、さまざまな仕事も含め、つながりの意味を、考えさせられます。

小平西地区の保育や子育てには、どのような課題があるのでしょうか。保育園、幼稚園、こども園という施設種の違いや、公立・私立の設置主体により異なる面はあるでしょうが、考えてほしい。そして、家庭における子どものことを含め、社会の一員として、子どもを守るために、いま、何が必要なのでしょうか。地道な議論と、できうる行動の具体化が求められるのではないでしょうか。

私たち大人も含めて、誰もが、誰かの子どもとして生まれ育ってきました。年齢をかさね、予期しない出来事に遭遇し、誰かに支えられ、援助を受ける立場にもなります。医療を支える看護師や医師、保育士のなかには、誰かの支えを受ける子育て中の母親・父親が存在しています。それぞれが、支え合う社会の現状を確かめ合いながら、小平西地域の取組みに、大いに期待したいものです。

小平西地区ネットワークって何？

2012 年 3 月 17 日に白梅学園大学関係者が様々なNPO、ボランテイア団体、民生・児童委員、町内会、大学・学校などに関係する方々に呼びかけて「お互いの顔が見える人間関係が豊かな地域づくり」を目指して立ち上げました。個人ベース（団体の担当者でも可）の加入を基本とする開かれたネットワークです。市民の皆さん一緒に活動に参加なさいませんか？

全国小・中学校リズムダンス

ふれあいコンクールへの参加を通して

白梅学園清修中学校・中高一貫部

保健体育科　中澤　亜紀

この大会は、文部科学省の学習指導要領において必須となった、「現代的なリズムのダンス」を通常の体育の授業で取り組んだ内容を学級単位で発表する、TBSが協賛し文部科学省が後援する大会です。

5年前にこの大会を知り、エントリーをしました。清修中学校は、生徒が主役。学校生活や行事は、生徒が企画運営します。この大会も例外ではありません。リーダーを決めるのも生徒たちです。リーダーが決まると、振り付けや練習のスケジュールを考えます。体育の授業を通じて、生徒たちに全てを考えて行動させる理由が2つあります。1つ目は、相手の気持ちを理解できる女性になってもらいたいから。人には、得意不得意があります。不得意なクラスメイトに対してどのようなアクションが効果的かを自分たちで考えさせます。30 人の生徒が集まれば 30 通りの考えがある。物事を押し付けるのではなく、相手の気持ちを理解しお互いが寄り添うことで、自然と笑顔が増え生徒間の絆が深まると実感しています。

2つ目は、成功体験をしてもらいたいから。何事も最初からうまくはいきません。しかし、清修中学校で6年間を共に過ごす仲間と1つの目標に向かって取り組むことで一体感が生まれます。そして目標を全国大会進出に設定し、実現することで『やればできる！』を実感することができます。清修中学校で日々生徒を見ていて感じることは、子どもの成長は、ほんの小さなきっかけから大きな成長に繋がるということ。

ありがたいことに清修中学校は、全国小・中学校リズムダンスふれあいコンクールにおいて、毎年連続して全国大会に進出しています。全国大会に出場するためには、事前にデータ審査を通過しなければなりません。結果は半月後にHPで発表されます。この時点で“清修中学校”の名前が掲載されていないことなど生徒も私も考えたことがありません。データ審査を通過したら次は関東大会です。毎年 2.3 年生がエントリーしていますが、関東大会進出は当然。「先輩が作り上げてきた連続全国大会進出というレコードを守る。」これが歴代受け継がれているのも生徒たちが頑張れる理由の1つです。

全国大会は、TBS の赤坂 BRITZ で行われ3位までに入賞すると担当教員は、生徒と一緒に壇上に登ることができるのです。昨年は、「入賞して先生と一緒に壇上に登る！」という目標が掲げられました。しかし、大会当日「清修中学校」の名前は呼ばれませんでした。悔しくて生徒と抱き合って泣きました。もちろん入賞校は、喜びの涙。清修生にもいつかあの感動を味わってもらいたい。そう決めたあの日から、密かに毎月赤坂の氷川神社にお参りに行っていることはここだけのお話。

このような取り組みを続けていたところ、2020 年度は、TBS の方より密着取材の依頼が来ました。関東代表として白梅学園清修中学校が選ばれたからでしょうか。密着取材の様子は、2021 年1月2日（土）5:00～TBS にて放送されました。密着取材の依頼が来たことを伝えた時から、練習やミーティングの様子、学校生活や全国大会の結果発表まで取材と撮影を受けてきました。生徒たちは、一生記憶に残る嬉しい貴重な体験をした 2020 年度でした。今年もこの大会を通じて生徒たちは大きく成長することができました。

オンライン子育て広場「世界旅行へレッツゴー！」

小林花凜（白梅学園短期大学保育科１年）

1月23日（土）オンライン子育て広場あそぼうかい「世界旅行へレェッツゴー！」を開催しました。今回のあそぼうかいは11月に続き2度目のオンラインでの開催でした。「世界旅行へレッツゴー！」をテーマに、国にまつわるクイズや絵しりとりなどのコーナーを用意しました。

最初の受付コーナーでは世界旅行に行くための「出国審査」として、機内に持ち込める持ち物かどうかを考える○×クイズを行いました。パワーポイントを用いて行うことによって、参加者さんたちがよりクイズに集中し、空港の世界観に入り込んでくださっていたと思います。

制作コーナーでは、ハワイをテーマにした写真立ての制作を行いました。完成した作品を画面越しに見せてくださり、参加者さんとのコミュニケーションを取ることができました。また、学生の Zoom のアイコンをヤシの木や海のイラストにすることで、ハワイの雰囲気をより感じられるように工夫しました。

遊びコーナーではフランスをテーマに、シルエットクイズと絵しりとりを行いました。
フランスに関する豆知識を取り入れ興味を持っていただけるように工夫しました。初めて聞くことも多かったのか、たくさんお話をしてくださり多くの関わりを持てました。

そして今回のオンラインあそぼうかいでは、休憩スペースとしてホットスペースを設置しました。ニュージーランドの生き物や動物に関するクイズや、きらきら星の手遊びを行いました。手遊びの際には、オーロラの画像を表示することで雰囲気も楽しんでいただけました。

最後におわりのつどいでは世界旅行の終着点として、我が国日本をテーマに、「おむすびころりん」の紙芝居を行いました。受付コーナー同様、パワーポイントを用いて紙芝居を作成しました。おむすびが転がっていく様子など全体的にエフェクトを使用したので、動く紙芝居のような感覚で見てくださっていました。

11月あそぼうかいの時より短い準備期間でしたが、学生同士コミュニケーションを取り合い、前回の反省を生かせたあそぼうかいだったと思います。今回の良かった点や反省点を次のあそぼうかいに生かしていきたいと思います。

本当の意味での学ぶ喜びを感じることができる

木塚 愛子（分った会講師）

「分った会」は中学生の無料勉強会（塾）です。私も以前、成田市の「むりょう塾」で講師をしておりました。成田市の場合は、元小・中・高校の退職教員の方たちが中心になって運営し、幼稚園児から高校生まで多種多

様な子ども達がいました。経済的に塾に行けないという中学生もいましたが、有料塾では受け入れてもらえない発達障害を抱えた小学生、また不登校気味の高校生もいました。

小平西ネットワークの「分かった会」の講師になって一年が過ぎようとしています。と言っても、会場である小川公民館の休館で休業中の期間が長かったのですが…「分かった会」は、ほぼマンツーマンの無料塾です。講師の方たちは現職の教員だけではなく、大学生、退職された市民、主婦の方などいろいろです。それぞれが、自分の経験を生かして自分の裁量で教えています。そして生徒さんも分かるまでゆっくり相手してもらい、学ぶことの喜びを感じているようにみえます。もちろん、ボランティアの講師の方々も、教える喜びのようなものを感じておられるはずです。

コロナ禍の中で、学校現場は新幹線並みの超特急授業が進められています。だからこそ、この「分かった！！」と生徒の皆さんが、本当の意味での学ぶ喜びを感じることができる「分かった会」の魅力を大切にしたいと思っています。

子どもの心に寄り添って

山口智子（分った会保護者）

わかった会に入会したのは確か、中学 2 年生の頃でした。過去の経験から、親の思いだけで塾や家庭教師にお金をかけても結果はついて来ない事は痛いほど分っていました。しかしほとんど家庭学習をしない(課題だけはしっかりやる)彼女に私は少し焦りを感じていました。

そんな時、中学校から《わかった会》のお知らせを頂きました。開催日が習い事や部活に重ならないことを理由に勧めてみたところ、少し気持ちが動いたので早速入会を決めました。

初めは嫌々だったので、散歩ついでに送迎をしました。夜道を 2 人で歩くと普段話さない様な会話も弾み、楽しいひとときでした。そのうちに忘れずに一人で通う様になっていきました。何事にもなかなかエンジンがかからないけれど、自分で決めた事はやり通すことのできる子だと感心しました

高校受験に関しては、第一希望の都立から私学単願推薦に決定するまでは何回も一緒に学校見学に通い、本人が納得するまで寄り添いました。そしてこの度、希望通り私立に合格することができました。内申が単願推薦基準に達していたことは日々の授業態度や部活動の成果、提出物期限厳守努力の結果だったと思います。また無欠席もポイントでした。
自分で決めて合格した高校は、彼女の夢と希望がたくさん詰まっていることでしょう。

高校生活をEnjoyし、夢が現実のものとなるよう努力していってほしいものです。そしてできれば課題をたくさん与えて頂ける事を願っております。これまで指導を頂いたわかった会の先生方々にこの場を借りてお礼申し上げます。

震災からの 10 年 繋がりのきっかけ

向笠聡（NPO 法人サポートクラブあすなろ）

東日本大震災が発生した 2011 年は私が白梅学園大学に入学した年でもあります。入学してすぐに「白梅子育て広場」に参加するようになり、共に活動していた地域との繋がりが多くあった先輩からの誘いで、震災を機に立ち上げられたボランティア団体の被災地支援ボランティアに数回参加させていただきました。被災地での光景は、まるで「映画のセットなのではないか」と思ってしまった程、現実のものとは思えず衝撃的であったことを覚えています。作業時は初めて体感したヘドロの臭いに咽こんだり、味噌工場での作業では全身味噌まみ

れになったりと過酷な状況下での活動であったことは紛れもない事実です。それでも作業を経て整理された部屋等を見ると達成感を感じられ、味噌工場の方からは「こんなに綺麗にしていただいて・・・」と喜んでいただけ

たことも心に残ったことの一つでした。

その後「被災地の子ども達を招いて外遊びをさせてあげよう」という取り組みが始まり、白梅子育て広場も参加団体の一つとして参加。当時の私は学生代表を務めさせていただきました。子ども達を迎えた本番では学生が用意した遊びを一緒にやったり、一緒に行動したりする等、学生としてできる寄り添った取り組みを実践。2012年からほぼ毎年継続して参加しました。私個人として卒業後も参加を続け、現役大学生の後輩達を繋げる役割も担っていました。

震災というとても大きな衝撃の悲しい災害が発生してから10年。微々たる力ではありましたが、支援の一部分に携わってきました。自分の人生にとって非常に大きな経験ができたのも地域で活動する方々と繋がることができたお陰だと強く実感しています。そういったきっかけにもなれたことから震災は本当に悲しいできごとでしたが、悪いことだけではなかったのではないかと個人的には思っています。できた繋がりを大切にしながらこれからの人生も歩み続けます。

西の風が吹いた！！

カフェなかじまコロナウィルスとの戦い

菊地ゆみ　西の風

“西ネット”のスタート後、市内で一番西端の『西の風』も多くの方の協力を得、その中で地域包括支援センターを主軸にカフェなかじまが令和元年度立ちあがりました。このカフェなかじまは、地域センター利用型の“年齢関係なく、誰もが参加出来る居場所”を目指し毎月第1水曜日の開催を計画していました。
（写真は、今となっては大変懐かしいマスクも無く「蜜」な状態で歌ったり笑ったり、コーヒーやお茶を飲んだりのカフェなかじまです。）

この楽しく皆で集まれ、笑いながら会食できる場が私達の努力次第でいつまでもいつまでも続くと・・・この時

は、思っていました。しかしながら、この後の緊急事態宣言を受け、地域センターは休館となり再開しても常に地域センターから『蜜にならないよう人数を制限する』よう要請され今は会議名目で数人が集まり、今後を協議し

ている月々になってしまっています。

本来ならここで考え方を一新し、ZOOM 等の利用を参加者に促し、画面越しでも会える環境を整えようと奮闘すべきですが、パソコン環境が無い地域センターでは個人の力で出来る容量を（データ容量も）超えてしまいます。今までパソコンは一部の人のモノでありましたが、今後の感染症対策を考えると（特に避難所に想定される場所全てが）フリーWi-Fi の環境を整える事が急務であると思います。

with コロナの時代･･･私達の命を脅かすのが目に見えないウィルスなら、人との繋がりを守るのも目に見えない「電波」（Wi-Fi）であることを真剣に考えなければいけない時代が到来したと痛感します。

西ネット第３８回地域懇談会報告

地域包括から見えてくる現状

暮れも半ばを過ぎた12月18日（金）、西ネット2回目のオンライン地域懇談会を開催しました。参加者は20人ほどでしたが、地域包括支援センター中央西圏域、小川ホームの小林さんから、支援センターがどのような活動をしてきたのか、コロナ禍の中でどのような工夫をしているのか、課題は何か等について30分ほど話をしていただき、それについての質疑応答がありました。

地域包括支援センターは、介護保険を活用して、介護予防や地域づくりを目指してきたものですが、国の生活支援体制整備事業にともなって、本格的に地域づくりを目指そうとしたものです。しかし小平市を5つに分けて、それぞれの地域を地域包括に指定された施設や組織がまとめるといってもやはり大きすぎます。そこで3年前よりさらにそれを9つのブロックに分けて地域づくりをすすめるということで動いています。それを第二層として、それぞれの地域で協議会づくりが進められています。小林さんの所属する小川ホームでは小川西町を中心に協議会を立ち上げ、小川西町応援メッセージやお店の紹介等の情報を地域の中に広めようとしてきています。

しかしこのコロナ禍で集まることが難しくなり、中断せざるを得ないところがあります。そこで地域内にあるブリジストンと連携してZOOMを活用したつながりづくりをすすめようとしています。ブリジストンはアリーナづくりと合わせてみんなが集える芝生の広場をつくったり、自治会とのつながりを考えています。小川ホームの前に「応援メッセージボード」を置いたが、通りかかる市民の方々が積極的に見てくれたりしている様子が話され、つながりづくりに関心があることも分りました。

小平市の市民協働・男女参画推進課からは、コロナ禍で自治会の説明会を行ったがパソコンはできてもZOOM がうまくできない人もあり、操作を覚えるところからの支援が必要になっていること、しかし画面上でも話をすることの重要性が強調されました。

コミュニティサロンとして何年もやってきた「さつき」や「きよか」が持ち主の事情で使えなくなっているという状況の中で、空き家をもっと活用できるような手だてがないのかも模索されました。「さつき」も「きよか」も、そこに集まることで元気になる人々がたくさんいるので、それを広げることが地域のつながりを作っていくことにもなるのではないかとまとめられました。

小川西公民館では2つの日本語支援サークルが行われています。コロナ禍で休止になっていますが、地域づくりを進めるにあたって外国籍住人等との多文化共生も考えなければなりません。また小川西地域ではひきこもりや不登校をテーマにした集まりが予定されています。

アクア薬局の取り組みについて

三澤 祐大

・複数の医療機関を受診していて、薬の整理が難しい…。
・受診に付き添いが必要で、薬を受け取るのにさらに１時間以上待つのは難しい…。
・日曜日に処方箋を貰ったけれど、薬局が見つからない…。

上の 3 つは、2021 年に入ってから当薬局に複数回寄せられたご相談です。本稿をご覧いただいている方でも、似たようなお話を聞いた方がいらっしゃるのではないでしょうか？

当薬局は 2006 年に私の父が代表として就任し、地域の人とのつながりを最優先として運営してきました。15 年以上営業をする中、ここ数年で服薬管理や受診の困難さと向き合う事になった方が増えたように思われます。

そこで、当薬局では 2018 年より居宅療養管理指導に力を入れています。これは、ご自宅に薬剤師がご訪問して服薬管理のお手伝いをするもので、介護保険等を利用できます。現在、アクア薬局ではこの制度を利用して月 100 名以上の方にお薬を供給しています。

同時に、薬局では充実した居宅療養管理指導を実施するために、様々なシステムを導入しています。

お薬の整理が難しい方には薬局で服用時点ごとに一包化を行い、服薬を容易にしています。一包化した後は間違いが無いかを確認する必要がありますが、2 重チェックのために、2020 年から画像認識を利用した監査システムを導入しました。

また、訪問診療医や訪問看護・介護の方とスムーズに連携するためにオンラインの情報共有システムを用いており、24 時間 365 日でお薬の相談を受けられるようにしています。これに付随して、日祝日の臨時処方箋をお預かりすることも増えてきました。

お薬は多くの方が毎日のように口にするものです。そして、それは安心して飲むことが出来なければいけません。アクア薬局は地域の中の薬局として、皆様のお薬の安心を提供できるように、今後も設備、研修および体制作りを積極的に行っていきたいと考えています。

白梅フードパントリー 実施報告

学生課 課長 胡かおり

新型コロナウイルス感染拡大の影響で、本学でも困窮学生ならびに困窮家庭が急増していることを受け、12 月に「白梅フードパントリー」を開催し食糧支援を行った。利用者への出口調査で、ほぼ全員が継続を希望しており、そのため本学では毎月1回程度のペースで開催することが決定した。

実施に際してコロナ禍の学生を応援する支援団体である、NPO 法人シェア・マインドにご協力を頂き、運営の仕方、学生アンケートのとり方等をご指導いただいた。また、元教員が理事長を務めておられる、八王子のフードバンク「えがお」にも運営の仕方をご教授いただいた。

「フードパントリー」という名称ではあるが、ティッシュペーパーなどの日用品も準備している。食糧や日用品は、小平市社会福祉協議会からの提供の他に、フードバンク府中、フードバンク TAMA、NPO 法人シェア・マインド、ならびに本学教職員の寄付で賄った。元教員からの無農薬野菜の寄付もいただいている。

実施日程は、第 1 回目（12 月）は分散登校を実施中のため6日間の開催、第 2 回目（1 月下旬～2 月初旬）は緊急事態宣言中のため 5 日間の開催をし、全学生に均等に機会を提供した。利用人数は、第 1 回目 1 年生から4年生まで 合計 23 名の利用、第 2 回目 1 年生から4年生，同法人内の高校生 2 名の合計 23 名の利用があり、大学・短大の学生に限らず、希望者には利用していただいており、感謝の声も届いている。

【学生からの声（抜粋）】

●コロナ禍でバイトを辞めたので非常に助かりました。

●いろいろな種類の食品をたくさん持って帰ることができとても助かりました。

●色々な種類のものを選ぶことが出来て嬉しかったです。

3 月下旬にも開催を予定している。持続可能な取り組みを模索しながら、今後も実施していく。

皆さん、コミュニティ・サロン（下の①～⑤）と「中学生勉強会」（④）に足を運んでみませんか？

お待ちしております！　（右の地図を参照）

①　ほっとスペースさつき

毎週火曜と木曜　10:00~16:00　（移転先検討中）

問合わせ：渡辺　穂積

TEL: 042―344－7412

②　ほっとスペースきよか

毎週月曜　11:30～15:30　（移転先検討中）

問合わせ：石川　貞子

TEL:090－7732－2089

③　アットホームはぎ

毎月 7, 17, 27 日：14:00～17:00

問合わせ：萩谷　洋子: 042-342-1738

④　「分かった会」小中無料学習教室

毎週木曜日　18:00～20:00　（小川公民館）

問合わせ：奈良　勝行　（講師募集中！）

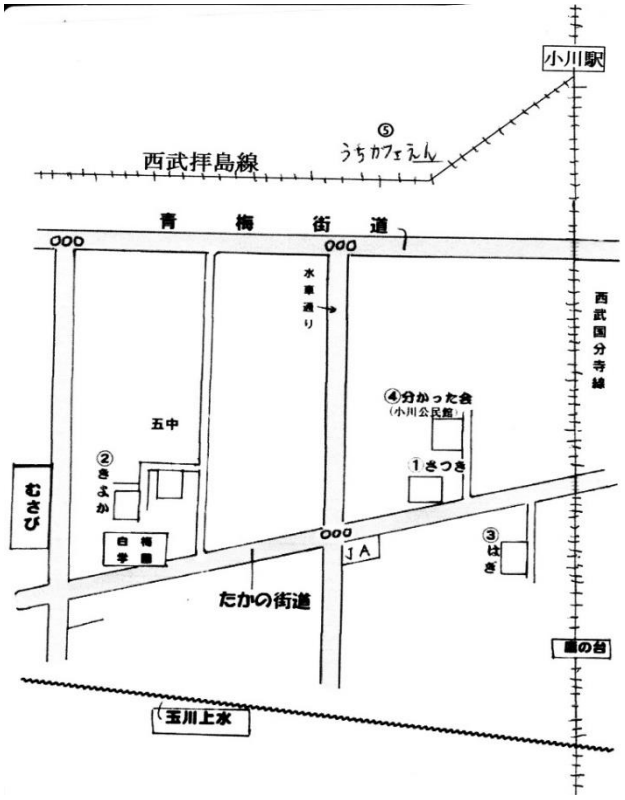
TEL:090-4435-4306

⑤　子育てサロン「うちカフェえん」（小川西町）

毎週月・水　13：00～15：30 分

問合わせ：伊藤絹代

TEL: 090－5441－6219



イベントの予定

（コロナウィルスの影響でほとんどの計画は未定です）

西ネットの今後の予定

大学世話人会：　04 月 13 日（火）18時～
地域世話人会：　05 月 11 日（火）18時～
大学世話人会：　05 月 25 日（火）18時～
懇　談　会　：　06 月 08 日（火）18時～
大学世話人会：　06 月 22 日（火）18 時～

西ネットの世話人

ブロック	地域世話人	大学世話人
1	西　克彦・丸山安三	瀧口　優・杉本豊和 福丸由佳
2	足立隆子・芳井正彦・ 今野志保子	午頭潤子・土川洋子 吉村季織
3	石川貞子・大内智恵子・ 久保田進・穂積健児・ 杉浦博道・吉田徹	金田利子・草野篤子 西方規恵・牧野晶哲
4	桜田　誠・萩谷洋子 福井正徳・細江卓朗 渡辺穂積	井原哲人・森山千賀子
全体		奈良勝行・長谷川俊雄

お願い：この広報紙『小平西のきずな』の編集方針は、「顔の見えるネットワークづくり」を目指して参加団体（者）の活動などを紹介し、文字通り「市民のきずな」を築いていこうとするものです。ニュースの全部または一部を改編することはお断りします。もし使用したい場合は編集担当までお申し出下さい。

投稿募集：このニューズレターは皆さんと一緒に作るものです。活動の報告やイベントの企画などについての原稿をお寄せください（奈良勝行）。

メール：ever.onward.nara@xd5.so-net.ne.jp

編集後記：「小平西のきずな」も今回で 37 号を迎えます。3ヶ月に1号の発行なので、この4月から10年目に入ります。もちろんここに載せられなかったものも沢山あるので、それらを含めてもっと地域の顔が繋がっていくことを期待しています（瀧口）。